

Press Release

報道関係者各位

ARTS COUNCIL TOKYO 

平成28年9月12日（月）
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
NPO法人粋なまちづくり倶楽部



神楽坂まち舞台・大江戸めぐり 2016 開催のお知らせ

まち全体を舞台に、日本の様々な伝統芸能を神楽坂から未来に向けて発信！

伝統と先端が融合する神楽坂で、まち全体を舞台にした「神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2016」を、平成28（2016）年11月12日（土）〈前夜祭〉、13日（日）〈本祭〉に開催します。

このイベントは日本を代表する様々な伝統芸能を、世代を超えて多くの方にわかりやすく楽しくご紹介するとともに、海外からの観光客を含む多くの方々に、神楽坂の魅力に触れていただく「まちと人が一体になった祭」です。4回目となる今回は、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）と、地元神楽坂の振興に尽力してきたNPO法人粋なまちづくり倶楽部との共催となり、地元住民の方々と共に作り上げるイベントに仕立てました。

神楽坂は、江戸・東京の文化とパリの洗練された雰囲気調和・融合しているまちとして幅広い世代に人気です。このイベントでは、地元神楽坂の方々の協力のもと、若手からベテランまで、神楽坂に縁（ゆかり）があり、第一線で活躍する様々なジャンルの伝統芸能のアーティストが集結。路地を歩きながら演奏する「新内流し」や、芸者さんのお座敷遊びなど、神楽坂らしい企画を盛りだくさんにご用意します。また連携企画として「伝統芸能講座」を事前に行うなど、伝統芸能をより身近に感じられるようになっています。

生活に伝統文化の息づく街・神楽坂で、日本の伝統芸能と繋がることのできる祝祭の二日間。伝統芸能に馴染みのない方々から若い世代、そして外国の方々まで気軽に楽しめるイベントです。

ぜひ貴媒体にてご紹介いただければ幸いです。

【開催概要】 ※次頁以降の詳細もぜひご参照ください。

タイトル：「神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2016」

開催日時：前夜祭 平成28（2016）年11月12日（土）15:00～19:30頃

本祭 平成28（2016）年11月13日（日）11:30～18:00頃 *両日共に雨天決行・荒天中止

実施会場：神楽坂エリア（毘沙門天善國寺、赤城神社、東京神楽坂組合・見番、
神楽坂通りエリア内路上、歴史的な名所旧跡等）

参加形式：無料（「見番」公演のみ有料・要事前申込）

主催：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、NPO法人粋なまちづくり倶楽部

助成・協力：東京都

後援：新宿区、一般社団法人新宿観光振興協会

協力：東京神楽坂組合、毘沙門天善國寺、赤城神社、株式会社粋まち、神楽坂通り商店会、
神楽坂商店街振興組合、江戸東京ガイドの会、光照寺、圓福寺、東京都消費生活総合センター、
若宮町自治会、あずさ監査法人、第一勧業信用組合（神楽坂支店）、日本出版クラブ、
スターバックス コーヒー 神楽坂下店、ちかけん


制作：古典空間 **運営：**NPO法人アークシップ **広報：**サザンカンパニー

お問合せ：神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2016事務局（古典空間内） 担当：小野木、古崎、佐藤

TEL：03-5478-8265（平日10～18時） FAX：03-5478-8267

メール：contact@kaguramachi.jp

公式ウェブサイト：<http://kaguramachi.jp/>

※新宿フィールドミュージアム参加企画  新宿フィールドミュージアム

■報道関係の方のお問合せ先

神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2016事務局（古典空間内） 担当：小野木、深澤

TEL：03-5478-8255 FAX：03-5478-8267 E-Mail：pr@kaguramachi.jp

■本リリースに関するお問い合わせ

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団） 広報担当：森（隆）、圓城寺

TEL：03-6256-8432 / E-mail：press@artscouncil-tokyo.jp

【実施内容】

+++++

-INDEX-

1.前夜祭-Eve-

- 店めぐり・古典芸能ライブ
- 神楽坂路上界限①「新内流し」※本祭でも実施
- 神楽坂路上界限②「城端^{じょうはなひきやまつり}曳山^{いおりうた}祭<庵唄>」※本祭でも実施

2.本祭-Main Festival-

- 神楽坂楽座～講釈場
- 神楽坂芸能めぐり 街角ライブ
- 覗いてみようお座敷遊び
- 赤城神社夕暮れライブ
- 神楽坂タイムスリップ（スタンプラリー／歴史ガイド）

連携企画

- 伝統芸能講座「楽しい！カッコいい！日本の音楽・芸能“はじめて”講座」

+++++

1.前夜祭 -Eve-

多くの味わい深い文化を生み出した「神楽坂の夜」も神楽坂の魅力の一つです。風情の増す時間帯に、石畳や黒塀などの路地をそぞろ歩き、洒落たお店で味わう伝統芸能・・・夜ゆえに味わえる神楽坂の魅力を楽しんでいただけます。

店めぐり・古典芸能ライブ

神楽坂ゆかりの古典芸能演者が洒落たレストランやカフェで行うミニライブ。お店の雰囲気に入りつつ味わう演奏と粋なお話……多くの味わい深い文化を生み出した「神楽坂の夜」を楽しむことができます。

日 時) 平成 28 年 11 月 12 日 (土) *雨天決行

場 所) ザ・ロイヤル・スコッツマン 15:00～15:45

シリル・コピーニ (フランス人落語パフォーマンス)

縁香園 16:00～16:45

神田織音 (講談) × 鶴賀伊勢吉 他 (新内節)

風雅すたいるカフェ 17:00～17:30

岡村慎太郎 (地唄)

神楽坂モノガタリ 19:00～19:30

望月晴美 (邦楽囃子) 他

参加料) 鑑賞は無料 (飲食代は別途)

開演 1 時間前より各会場で入場整理券を配布します。



神楽坂路上界限

石畳や黒塀など風情のある神楽坂の路地や横丁。こうした路上をそぞろ歩けば偶然のように出逢う「流しの芸能」。今年も、地元神楽坂在住で新内節の人間国宝・鶴賀若狭掾（つるがわかさのじょう）の一門が、粋な姿で神楽坂界限を流します。そして新内流し同様、大変人気が高い城端曳山祭の「庵唄（いおりうた）」約 300 年の伝統を誇る城端曳山祭（じょうはなひきやままつり）（富山県南砺市）で伝承され、江戸端唄の流れをくむ城端独特の「庵唄」の皆さまが、今年も神楽坂のまちを練り歩きます。江戸の風情がよみがえるひと時です。（前夜祭、本祭、両日とも実施します。）

①「新内流し」

日時）平成 28 年 11 月 12 日（土）16:30 頃～17:30 頃／18:30 頃～19:30 頃
13 日（日）12:30 頃～13:00 頃／16:00 頃～16:30 頃

場所）神楽坂界限（寺内公園からスタート）

出演）神楽坂在住、新内節の人間国宝・鶴賀若狭掾一門
（鶴賀伊勢吉 他）



②「城端曳山祭＜庵唄＞」

日時）平成 28 年 11 月 12 日（土）15:00 頃～16:10 頃／17:30 頃～18:30 頃
13 日（日）12:00 頃～12:40 頃／13:10 頃～13:50 頃／14:20 頃～15:00 頃

場所）神楽坂界限（毘沙門天善國寺からスタート）

出演）城端庵唄・宝槌会



ほんまつり

2. 本 祭 –Main Festival–

毘沙門天善國寺境内の「楽座」では江戸時代の講釈場（こうしゃくば）を再現し、講談などの語り芸を披露。神楽坂のメインストリートにおける路上パフォーマンス、見番における芸者衆の踊りとお座敷遊び、情緒溢れる散歩と歴史ガイドが楽しめるスタンプラリー、数々の大道芸に遭遇するタイムスリップ、そして赤城神社神楽殿で古典芸能を味わう夕暮れライブまで、街中で日本文化の魅力をたっぷりと楽しめます。

今回は、＜神楽坂楽座～講釈場＞及び＜赤城神社 夕暮れライブ＞における司会進行を、地元の老舗 助六店主の石井要吉氏と、＜店めぐり・古典芸能ライブ＞にも出演するフランス人落語パフォーマーのシ rilル・コピー二氏が行う予定です。

神楽坂楽座～講釈場

その昔、人々が集う神社仏閣の境内に設けられた講釈場からは、様々な情報が発信されました。今回は毘沙門天善國寺境内に設けるステージを講釈場に見立て、若手講釈師による講談のほか、琵琶語り、浄瑠璃（義太夫節）などの伝統語り芸が神楽坂の魅力を賑やかに彩ります。伝統芸能の初心者の方にも、わかりやすい言葉でお楽しみいただけます。

日 時) 平成 28 年 11 月 13 日 (日) 11:30～16:30 頃

場 所) 毘沙門天善國寺境内特設ステージ

参加料) 無料

出 演) 神田山緑 (講談)、
田辺銀冶 (講談) × こと (笛)
後藤幸浩 × 水島結子 (琵琶デュオ)
竹本京之助 × 鶴澤賀寿 (義太夫節)、



神楽坂芸能めぐり 街角ライブ

神楽坂路上界限 3 か所にライブスポットが出現します。神楽坂通りのどこにいても、ちょっと足を止めれば様々な伝統芸能のパフォーマンスが楽しめます。息をのむ技巧あり、聴きほれる名演奏あり。伝統とモダンが融合したユニットから、江戸の粋を今に伝える実演家まで、幅広い年代層の方々にお楽しみいただけます。

日 時) 平成 28 年 11 月 13 日 (日) 12:30～16:30 頃

場 所) 神楽坂界限 (「志満金」前、「山下漆器店」前、
パークリユクス神楽坂前ポケットパークの 3 か所)

参加料) 無料

出 演) 「志満金」前

若獅子会 (邦楽囃子)、雅楽三味 中村さんち (笙・
箏・龍笛)

セ三味ストリート (津軽三味線パフォーマンス)

「山下漆器店」前

大多和正樹 (和太鼓) × 岩田卓也 (尺八)

丸一仙翁社中 (江戸太神楽)、

輝&輝 (津軽三味線) × こと (笛)

パークリユクス神楽坂前ポケットパーク

マクイーン時田深山 (箏) × ブルース・ヒューバナー (バンブーフルート)

上条 充 (江戸系あやつり人形)、木場大輔 (胡弓) 他



〈昨年の様子〉

覗いてみようお座敷遊び

日本固有のおもてなしの一つに、宴席での芸者衆とのお座敷遊びがあります。神楽坂芸者衆による唄や三味線、踊りを鑑賞した後、お客さんも一緒に“お座敷ゲーム”が体験できます。会場は、花柳界の玄関「見番」。普段は入れない芸者衆の稽古場です。外国の方にもわかりやすく、気軽に楽しんでいただけます。

日 時) 平成 28 年 11 月 13 日 (日)

第 1 部 13:00~14:00、第 2 部 14:30~15:30 の 2 回公演 (内容は各回同じ)

場 所) 東京神楽坂組合・見番

出 演) 神楽坂芸者衆

立方：万り、千佳、桃子

地方：眞由美 (唄)、夏栄・櫻子 (三味線)、由みゑ (鳴物)



〈昨年の様子〉

参加料) チケット 2,500 円

※要事前申込 (各回 40 名)

※当日英語パンフレット配布、英語逐次通訳あり

※チケット取扱 Confetti (カンフェティ) <http://www.confetti-web.com/>

TEL:0120-240-540 (フリーダイヤル、平日 10:00~18:00 *オペレーター対応)

10 月 3 日 (月) 10:00~販売開始

赤城神社夕暮れライブ

江戸時代からの名所であり、夕景の美しいスポットとしても知られる赤城神社。そのモダンで美しい神楽殿で、長唄をはじめとする古典的色彩の濃い音楽ジャンルが趣のあるライブを展開します。またイベントのフィナーレとして、他のスポットに出演したアーティストたちも集まり (予定)、来場者・スタッフと一体になって祭りを厳かに締めくくります。

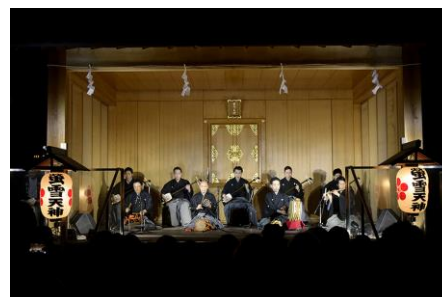
日 時) 平成 28 年 11 月 13 日 (日) 17:00~18:00 頃

場 所) 赤城神社 神楽殿

参加料) 無料

出 演) 丸一仙翁社中 (江戸太神楽)

芳村伊十治郎連中 (長唄) × 若獅子会 (邦楽囃子) 他



神楽坂タイムスリップ (スタンプラリー／歴史ガイド)

江戸時代から明治・大正時代の名所旧跡まで7か所をめぐるスタンプラリー、そして8か所ある歴史スポットでは神楽坂をよく知る「案内人」によるガイドがあります。昔、辻々を彩った「大道芸」に出会えるスポットもあり、歴史舞台へのタイムスリップが楽しめます。スタンプを7つすべて集めた参加者には、記念品として数量限定のオリジナル手拭を贈呈します。

日 時) 平成28年11月13日 (日) 11:30～16:00
(記念品交換は16:30まで ※数量限定)

場 所) 神楽坂界限 7か所のスタンプポイント
8か所の歴史ガイドスポット

参加料) 無料
(各ポイントでスタンプシート付きラリーマップを配付)

出 演) 日本大道芸・大道芸の会
(地獄極楽 絵解き、南京玉すだれ 他)

※英語版マップ及び各ポイントでの英語通訳対応あり



〈昨年の様子〉

連携企画

伝統芸能講座「楽しい！カッコいい！日本の音楽・芸能“はじめて”講座」

三味線、箏、尺八、琵琶、落語、講談…日本の音楽・芸能はカッコいい！基礎知識があればもっと楽しい！神楽坂が伝統芸能で溢れる「神楽坂まち舞台・大江戸めぐり 2016」(11月12、13日開催) 連携企画の講座。楽しく、わかり易く、伝統芸能の「い・ろ・は」をご案内します。

主 催) NPO 法人粋なまちづくり倶楽部

日 時) 10月29日(土) 14:00～15:30頃

場 所) 毘沙門天善國寺書院

参加費) 500円

予 約) 無し(先着順/当日13時より入場整理券配付)

定 員) 50名

ナビゲーター) 小野木豊昭(伝統芸能プロデューサー／(有)古典空間代表)

問合せ) 03-6426-1728 (NPO 法人粋なまちづくり倶楽部)



※諸事情により内容を変更、または中止する場合があります。雨天時の開催場所等はウェブサイト及び当日会場でご案内いたします。



【神楽坂の魅力】

神楽坂は、江戸時代からの切絵図と平成の地図が、その地割りにおいてほぼ重なるまちです。再開発などで多くの東京のまちが変貌した中であって、神楽坂は江戸時代からの道を今も辿ることができる不思議な都市空間が残されています。

通りの中心には毘沙門天があり、坂と路地が複雑に入り組んだ地域には、花柳界が繁栄してきました。芸事を重んじる花柳界の周辺には、歌舞音曲を教える師匠たちが稽古場をもち、伝統芸能が大いに発展してきました。

また明治・大正時代から文学や演劇との関わり合いも深いまちです。神楽坂ゆかりの作家といえば、尾崎紅葉、夏目漱石、泉鏡花など。新劇の世界では島村抱月と松井須磨子の芸術座のあった地としても知られています。

こうした文化人が多く住んだ神楽坂は、商業の分野でも数多くの名店を残しています。三代目、四代目がのれんを継いでいる老舗が今日も営業しています。

さらに神楽坂は、外国の方にとっても住みやすいまちとして、戦後からフランス人が多く移り住み、昔ながらの面影を残す路地に、フランス文化が独特の風情をつくり出しています。

ここ十数年は、神楽坂のこうした魅力が再発見されて、まちづくりのNPOやボランティアの若い人々も加わって、数多くの文化イベントが企画開催されています。東京の真ん中に位置し、特別なコミュニティを形成しつつある神楽坂は、いまや国内にとどまらず、海外からも大きな注目を集めています。

■取材に関するお問合せ先

神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2016事務局（古典空間内）担当：小野木、深澤

TEL：03-5478-8255 FAX：03-5478-8267

E-Mail：pr@kaguramachi.jp